科目ナンバリング	G-LAS13 80013 LJ90						
授業科目名<英訳>	健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ Disaster Healthcare Management Workshop			担当者所属職名・氏名	医学研究科　教授　　今中　雄一		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	健康・医療系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 未定	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

近年の地震、風水害、新興感染症の流行などにより、災害が大規模化・激甚化する中で、健康危機への対応・災害時医療は大きな社会的課題となっている。
大規模災害発生時には、医療ニーズが急増する一方で、医療資源がダメージを受けるため、需給のアンバランスが拡大する。こうした状況で被災地の医療崩壊を防ぐためには、災害時医療体制の速やかな確立が急務である。阪神・淡路大震災の教訓等から、大規模災害発生時に被災地で医療支援を行うための専門医療チーム、すなわち災害派遣医療チーム（DMAT）が誕生した。
災害時には、情報の収集把握、情報共有、計画・立案・決断・実行、関係者間の協働、資源の配備・調整といったマネジメントが極めて重要となる。国のDMAT事務局と緊密に連携して設置される保健医療福祉調整本部は、被災現場との連携を含め、災害対応の要として重要な役割を担う。
DMATは災害急性期から被災地に駆けつけ、この本部における情報収集や計画立案、患者広域搬送の支援、医療資源の分配、被災病院における医療継続支援など、あらゆるレベルでのマネジメントに関与する。これらの活動は、災害による被災地に住まう全ての人々（入院患者、施設入所者、一般住民、被災した医療従事者）の死亡や悲劇を低減し、可能な限り元と同じ人生や生活を維持することを目的としている。
「健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ」では、全国で災害対応・支援をリードし、経験豊富な我が国のDMAT総本山である厚生労働省DMAT事務局のリーダー陣が、実例に基づいたワークショップを行う。これにより、健康危機管理、特に災害医療におけるマネジメントの側面を、基本概念を理解した上で、実際のいくつかのケースの検討やグループワークを通じて体験的に学ぶことができる。
本ワークショップは、医療や災害の知識がない学生、経験がない学生でも安心して参加できるよう、全学・全研究科に開かれており、職種も問わない。近年、DMAT等の保健医療活動チームでは、活動の性格の変化や長期化に伴い、医療専門職だけでなく、業務調整員（事務職）の重要性が増しており、多様なバックグラウンドの人材が求められている。

[到達目標]

健康危機管理、特に災害医療でのマネジメントのしくみを理解し説明できるようになる。
・DMATの意義と活動について説明できる
・ CSCATTTについて説明できる
・広域災害救急医療情報システム(EMIS) ついて説明できる
・病院の災害対応と受援について説明できる
・本部業務、指示命令系統、活動体制について説明できる
・災害時の現状分析/活動方針決定の一例について説明できる
・病院支援の優先順位の決定の一例について説明できる
・CBRNE災害の課題について説明できる
・協調的に各種調整に貢献できる

健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(2)へ続く↓↓↓

[授業計画と内容]

アクティブ・ラーニング形式＋ワークショップ：単位数：１単位
（事前のオンデマンド学習と、対面の集中ワークショップ1日）
【日時】
・事前の４講義のオンデマンド視聴とレポート・質問作成
・対面ワークショップ：2026年8－9月頃の１日
朝～夕．１限～５限相当
【場所】京都大学 医学研究科 G棟 セミナー室A
【外部講師】
近藤久禎先生　厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構DMAT事務局次長
若井聡智先生　厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構DMAT事務局次長
ほか、厚生労働省DMAT事務局の先生方

＜アクティヴラーニング用e-ラーニング講義＞
講義１：DMATの意義について
我が国では、阪神淡路大震災を契機に災害拠点病院・DMAT・広域医療搬送計画・広域災害救急医療情報システム(EMIS)が整備された。
共通のトレーニングを受けた機動的な医療チームであるDMATが速やかに被災地に派遣されることにより、被災地域の医療機能を支援することができる。
講義２：CSCATTTについて
災害医療における活動の流れ（Command and Control, Safety, Communication, Assessment/ Triage, Treatment, Transport）とその各論について学ぶ。
講義３：広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS)
DMATは被災地内外のあらゆるレイヤーで支援を行うが、特に重要な被災地域の災害対策本部（保健医療福祉調整本部・DMAT調整本部・DMAT活動拠点本部）や被災病院での災害医療体制の確立について学ぶ。
講義４：病院の災害対応と受援
被災医療機関のDMATは当該病院の本部要員となることが期待されている。被災病院の立場での災害医療体制の確立・意思決定や受援について学ぶ。

＜対面ワークショップ＞
ディスカッション１：e-ラーニング講義の内容に関する質疑応答・ディスカッション
※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構　近藤 久禎/若井 聡智
DMATの内容・活動・意義、CSCATTT、EMIS、病院の災害対応と受援などについて、講義内容への質疑応答を行い、派生して出てきた疑問・課題についてディスカッションを行い、理解を深める。

ディスカッション２：「近年の災害対応とDMAT（自然災害）」
※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構　近藤 久禎／若井 聡智
阪神・淡路大震災以降、どのような理念でDMATが作られ、各災害を経てどのようにそのあり方が変化してきたかを学ぶ。DMATの成立当時は、被災現場や救護所での医療活動が重視されていた。現代では、DMATの活動の中心は調整・被災病院の本部活動支援・搬送が中心であり、近年は病院以外の福祉領域や亜急性期の復興における支援ニーズが注目されている。

机上演習１：「病院の現状分析/活動方針決定」
※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構　近藤 久禎／若井 聡智

健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(3)へ続く↓↓↓

※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美
　支援者の立場で、被災病院の現状に関する情報収集・分析を行い、病院の活動方針の意思決定を支援する流れを学ぶ。
　病院の現状を分析し、病院の安全が確保できない場合や機能維持が困難な場合は、病院避難が選択されるが、病院避難は病院の存続にも関わる大きな決断である。当該病院では生命維持が困難な患者の早期搬送や、資源が多く必要な患者を搬送することにより負担を軽減しつつ、不足している燃料・給水・ガス・医療資材などの支援を行うことで籠城の選択肢も探る。

机上演習２：「本部業務」
※講師：厚生労働省/国立健康危機管理研究機構 DMAT事務局　近藤 久禎／若井 聡智
※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美
　DMATの本部業務として、事前リストを活用した病院支援リストを作成し、病院支援の優先順位を決定するプロセスを学ぶ。
　事前リストと呼ばれる、各病院についての耐震性や災害時の電力・給水などの体制がまとまったリストが地域ごとに作成されている。このリストと、震度情報などを突き合わせることで、本部では病院支援の必要性が高い施設をピックアップし、支援の優先順位を決めることができる。

机上演習３：「COVID-19対応とCBRNE災害」
※講師：厚生労働省DMAT事務局/国立健康危機管理研究機構　近藤 久禎／若井 聡智
※ファシリテーター 佐々木 佳恵／黒田 愛実／堀田 舞／川野 聡美
COVID-19対応の事例（ダイアモンド・プリンセス号、クラスター対策班など）を通じて、CBRNE災害における課題の本質について討議する。
　東日本大震災では、原子力災害に対する恐怖感を原因の一つとして、適切な支援ができなかった結果、多くの犠牲者が出た事例が存在した。COVID-19の対応においても、リスクに対しての過剰な反応により、適切な医療を受けられない、あるいは隔離・差別による人道上の問題も生じた。こういった問題を繰り返さないために必要な方策について議論する。

[履修要件]

健康危機管理、災害医療のマネジメント側面に、関心を持つ者。
医療や危機管理についての特別な知識は必要ない。
当研修の趣旨を理解し、自学自習力と協調性をもって積極的に演習に参加できる者

[成績評価の方法・観点]

ワークショップへのコミットメント、レポート【素点(100点満点)評価】

[教科書]

＜資料＞
講義資料１ DMATの意義について
講義資料２ CSCATTTについて
講義資料３広域災害におけるDMAT活動と広域災害救急医療情報システム(EMIS)
講義資料４病院の災害対応と受援
講義資料や机上演習の資料は、ワークショップ中に適宜追加。

[参考書等]

（参考書）
関根光才監督, 映画「フロントライン」（2025）

健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(4)へ続く↓↓↓

健康危機管理・災害医療マネジメントワークショップ(4)

[授業外学修（予習・復習）等]

【ワークショップ事前課題】
※履修登録者は、ワークショップの事前に、４講義を視聴し、A4１枚以内で、学んだことのキーポイントと質問を記すレポートをLMSにて提出すること。

[その他（オフィスアワー等）]

京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可
問い合わせ等は、CHS事務局 chs-office@umin.ac.jp へご連絡ください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]